



## (奨学生に贈る言葉)

2020 年卒業生

### 小谷 春花（早稲田大学創造理工研究科 建築学専攻）

私は建築を学んでおりますが、正直どれだけ多くのものを見て、作って場数を踏んでいくか、どれだけ多くの引き出しを知っているかで設計できるかは大きく変わります。その点において私は、数々の面でお世話になりました。日本でも建築を見に行くことや、海外への留学も志すこともできました。

建築は様々な分野の接点にあり、芸術、音楽、歴史、数学、物理、人文学…らのターミナルとして捉えることができます。なので、毎年行われる交流会では、講演から交流時間においても、建築活動として参加できどんな人と会えるか、どんな報告をしようかと自らを省みたり、人脈を広げる一つの節目となりました。

自らの立つ位置を確認できる場であり、今だけと言わず 10 年後、20 年後に効いてくるような関係の芽が芽生えるかもしれません。是非見えない“関係性”をデザインしているのだなと思って楽しめる場になればと思います。ご支援に応えられるよう奮闘ください。

### 徳田 健二（北海道大学 工学部環境社会工学科）

自分が大学生活で一番やってよかったことは、飛行機での国内一人旅行です。行きたい場所を探して、一人で飛行機とホテルの予約をして、知らない土地をぶらぶら歩く。旅行を計画するのも楽しくできるのも自分自身。飛行機の予約や乗り方は少し面倒ですが自分でするしかないし、それさえできれば後は楽です。ホテルでは、頭を空にしスマホを触るのもベッドで静かに物思いに耽るのも楽しいです。一人旅行は案外楽しいし、誰にも頼れないので自然と自立心と責任感が生まれます。まだしたことのない人にお薦めです。

## 岡野 健人 (青山学院大学 文学部 英米文学科)

大学生や大学院生のうちは、社会人の方とお話する機会が余り多くありません。そんな中、1年に一回ではありますが、実際に多くの社会人とお会いできる機会が戸田育英財団にはあります。会話をすることで、新たな気付きがあるかもしれません。是非、交流会を有意義なものにしてください。

最後に、皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

## 小野 双葉 (慶應義塾大学 法学部政治学科)

学生という有限の時間を悔いなく周りに感謝しつつ、思い切りやりたいことに打ち込んでください。いろんなことに挑戦してください。

失敗してもまた挑戦すればいい！

## 奥村 泰地 (慶應義塾大学 理工学部情報工学科)

大学生活は自由度が高いです。自由だからといって遊んでばかりいては、教養のない人間のまま社会に出ることになってしまいます。しかし勉強ばかりしていても楽しいことがなく、せっかくの大学生活が灰色のまま終わってしまいます。程よく勉強をして、遊ぶときは遊ぶというのが大学生活では大切なことだと思いました。

僕たちは経済的に厳しい中で大学生活を送っていますが、アルバイト、勉強ばかりしては大学生活の4年間が楽しくないものになってしまうと僕は思います。何か楽しみや、目標を見つけて、過ごした方が思い出に残る大学生活になります。

僕は小学生の時から憧れていたオーストラリア旅行を大学生活中に実現させ、学生生活の最高の思い出が出来ました。楽しい思い出を残す学生生活を送ることが大切なことだと思います。

## 花咲 道弘（芝浦工業大学 システム理工学部環境システム学科）

戸田育英財団の奨学生は他の奨学生と違って年に一度の交流会に出席しなければならず、面倒だと考えていらっしゃる方もいるかもしれません。

しかしどのような方々に支援していただいているかを知るかを知ることは非常に重要であると考えています。

私は人見知りで人前に出ることがかなり緊張するので初めての交流会は非常に面倒に感じていました。交流会では目の前にいつも支援してくださっている方々がいらっしゃいますが、その時私は大学入学前に入学金を入学するために父親と銀行に行ったことを思い出しました。目の前で入金をして「これから頑張りなさい」と父親から言われとても感謝したことを覚えています。

交流会でも同じように感じました。授業に出席することや課題に取り組むことを面倒に思うこともありましたが、今の生活があるのも、いつもご支援いただいている方々のおかげだと思うと、切り替えて全力で取り組もうという気持ちになれました。ですので現在奨学生の方も感謝の気持ちを持って交流会に臨むと普段の生活をより充実させることができると思います。

最後になりますが学部生の間ご支援いただきありがとうございました。

## 高橋 千尋（芝浦工業大学 工学部建築工学科）

大学生は人生の夏休みと言われるぐらい何かをやり遂げるには十分且つ自由な時間が与えられます。もちろん勉強に時間を割くのも一つですが、お金を貯めて海外に行ったり、自由を勇気づけるための投資であったり、ボランティアに参加してみたりと高校生までの自分ではできなかったことをして自分の価値観を広げるチャンスです！！

私は自分のことを話すのは苦手でした。自分の信じていることが否定されるのを恐れていたからです。けれど大学生活の4年間でたくさんの人にとってそんな悩みがちっぽけなものに感じられるようになりました。

後輩の皆さんも大学を卒業する頃には前の時分と変わったなと思えるような残りの学生生活を過ごしてください。

## 巖 理華 (聖マリアンナ医科大学 医学部医学科)

奨学生の皆様へ

この参考書が欲しい、こんな研究がしたい、こんな所にも行ってみたい、など学生のうちにやってみたいことは沢山あると思います。

戸田育英財団の奨学生に選ばれた皆様はぜひ奨学金を有効活用し、より豊かな学生生活を送っていただきたいです。

また、年に一度開催される交流会では、様々な職種、学部の方が集まりお話しを聞くことができます。

このような機会は滅多に無いのではないのでしょうか。様々な人と交流し、ぜひ新鮮な刺激を受けてください。今後の皆様のご活躍を楽しみにしています。

## 山田 怜奈 (東京農業大学国際食料情報学部 国際農業開発学科)

私は特に素晴らしい功績を残したわけではないので、大したアドバイスは出来ませんが、大学生活の4年間を終えて、一番感じたことは「本当に人生で一番早く感じた4年間だった」だと思います。

大学生は高校生と比べて、授業の時間も短く、アルバイトもサークルも自分で好きなように時間の使い方を決めることができますが、全ての大学生に与えられる“4年間”という時間は平等で、この時間をどう使うかで、自分の将来に大きく関わっていたんだと卒業を迎える今、強く感じています。

私はこの4年間2つのことを意識しながら過ごしたことで、後悔のない4年間だったと思います。それは「①やりたいと思ったことはまずやってみる」「②挑戦したことには目標を定める」の2つです。

福岡から一人で上京した私は、羽田空港に到着してまず品川に行きたかったにも関わらず、横浜に間違ってしまうほど、東京のことについて分からなかったのですが、大学の入学式で説明があった「ペルー留学に絶対参加する！」という目標を定めて、1年次4月に研究室に入室し、研究室の先輩方の研究の補佐として日々農業の知識を深めていきました。

その努力の結果、2年次には念願のペルー留学を果たすことができ、3年次には卒論の実験、4年次にはアブラナ科遺伝資源の探査を行うためにミャンマーに渡航しました。

また、勉強だけでなくせつかく上京したならば、東京でしか経験できないアルバイトをしようと決め、表参道のタピオカミルクティーのお店「Gong cha Japan」で、1年次の4月からアルバイトを始めました。

そこでも、マネージャーになると目標を決めた1年後に抜擢され、時間帯責任者として店舗運営したり、お台場店、浅草店の新店舗準備に携わったりとアルバイトも充実していた4年間でした。

一度しかない大学生活、皆さんもおもいっきり謳歌してください。

### 小島 莉乃 (東洋大学 経営学部会計ファイナンス学科)

私は、2016年から2020年までの4年間、戸田育英財団の奨学生として選んでいただきました。私にとっての4年間はとても早く感じました。

財団の奨学生としての経験で自分の糧となったことは、年1回の交流会を通じて、様々な人と出会えたことです。違う大学、違う専門分野を勉強している人、ゼミでの研究内容が全然違う同じ奨学生の皆と会って交流できたことはとても勉強になりました。これにより、自分の視野が広がり、世界で起こっている様々な事象について深く考えるようになりました。

心から感謝しきれない気持ちでいっぱいです。戸田育英財団から卒業しますが、また機会があれば、ぜひ皆さんにお会いしたいので、今後もよろしく願います。

### 渡邊 正明 (明治大学 農学部 食料環境政策学科)

皆さんはどうなりたいですか？どのように生きていきたいですか？

「私らしさ」とは何か。それさえ明確であれば進路に悩むことはないでしょう。

大学とは、自分を知り、個を伸ばす場だと思います。常にどうありたいかを頭に描いていれば、そのうち分かってくるでしょう。そして決めた道を突き進むために、いただいた奨学金を有効利用してください。

余談ですが、自分が何を本当にやりたいのかを知るには、海外への一人旅がおすすめです。言葉も文化もよく分からないところで長期間一人過ごす、日本にいる時よりも何に興味があるのかが、明確になるように思われます。

白山 和大 (立教大学 法学部 国際ビジネス法学科)

支援してくださる周囲の方々への感謝を忘れずに。

楽しく学生生活をお過ごしください。

島田 大輔 (早稲田大学 創造理工学部 社会環境工学科)

後輩の皆さんと交流会でお会いできるのを楽しみにしております。

このご縁を大切に、皆さんから様々なことを吸収できればと思っております。

新谷 美菜 (早稲田大学 創造理工学部 社会環境工学科)

4年間は本当にあつという間でしたが、様々な文化や価値観に触れて素敵な経験をすることができました。

2年生の春に行った3週間のオーストラリアへの短期留学では、初めて海外の友達ができ、様々な文化を知ることができました。英語が勉強の一科目ではなく「言語」であるということが実感できた貴重な機会となりました。また、親元を離れての生活を体験したことで、自立心が芽生えました。

また、アルバイトでは、家庭教師と塾講師として社会人の方の指導をする機会に恵まれました。社会人の方の学び直しを近くでサポートすることで、勉強とは、教育とは何か考えるきっかけとなりました。

後輩の皆さんにもどんどん新しいことに挑戦し、経験してほしいと思います。奨学金があれば、挑戦の幅も広がると思います。

頑張ってください。応援しています。

澁谷 航星 (立命館大学 経営学部)

「創造的な人生の持ち時間は10年だ。」この映画「風立ちぬ」の言葉を私は頭の隅にいつも置いています。長い人生のうちでも飛躍的に自分を伸ばせる時間は短く、それは若い時でしかないのではないかと思います。なので大学生や20代のうちに、やれるだけのことをやりきることが大切ではないかと感じていま

す。

しかし、その一方で大学生の間に何をするかについては工夫をする必要もあります。社会のシステムや価値観が大きく変わる中で誰かの努力を真似るのではなく自分の頭で柔軟に考え、先を読み、計画を立てることも必要だと思います。以上の2点私が「奨学生の皆さんに贈る言葉」です。

末筆になりましたが、財団の皆さんには本当にお世話になりました。おかげで4年間は充実して今までの人生の中で最も成果が出せました。これからも自らの「贈る言葉」に恥じることはないよう頑張っていきたいと思います。

有難うございました。

### 後藤 麻里 (京都大学 法学部)

皆さんには、奨学生として支えてくださる方の期待に応えられるよう各々の分野で努力をすることはもちろん、様々な学校から様々なバックグラウンドを持つ仲間と知り合う貴重な機会を是非存分に生かしていただきたいと思います。

きっと奨学生のうち誰と話をするとしても、何かしら新たな発見があるでしょう。私は知らないことを知ることは、自分の世界を広げることであり、それは人生をより豊かにすることであると、様々な未知と出会うことを通じて実感しています。確かに、これは労力を要すると感じる人もいますが、折角の交流会、積極的に声をかけ、色々な話を聞いてもらいたいです。

戸田育英財団の奨学生として、金銭的援助に加えて、自分を成長させる絶好の機会を得られることに感謝し、互いに刺激し合い、高めあっていってください。

### 初鹿野 慎 (筑波大学 社会・国際学群社会学類 政治学)

大学というのは、とことこん自由です。充実させるのも、味気のないものにするのも全て自分次第です。

奨学金をいただくということはあくまでも手段なので、浮いた時間をどのように活用するか、日々考えながら行動していれば最高の大学生活を送ることができると思います。

松田 菜々美（筑波大学 人文・文化学群日本語・日本文化学類

日本語・日本文化学)

先を見るのが難しい社会でこれからは不安を感じてしまうこともあると思いますが、自分のやりたいことは何かなどを考え直し、大学生活の自由な時間を楽しんでください。

戸田育英財団の支援があるからこそ挑戦できる範囲が広がると思うので、やらない理由は考えず、ひとまず挑戦していくことも大切かなと思います。